

まいづる元気人 Vol.83

命の大切さを子ども達に

「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」をコンセプトに、いのちの大切さを学習する「誕生学」。小・中学校を中心に、自分の生命力や誕生してきた奇跡を再確認し、自尊感情を高め、心も体も、自分も相手も大切にできる人を育てるための活動を行う和田さんに話を伺った。



社会法人誕生学協会認定
誕生学アドバイザー

和田 法子 さん

誕生学との出会い

出身は大分県、夫と共に昭和60年に舞鶴へ。舞鶴市民病院で助産師として働きながら、中学校で「命の大切さと性」などの出前授業を行っていた。

定年退職後は助産師として出産後の訪問指導をしたいと思っていたが、市民病院の産科が閉鎖となり早期退職。京都府女性の船に誘われ、その活動の中で、有職女性が組織する世界最大の奉仕団体である国際ソロプチニストに誘われた。私なんか…と恐縮することもあったが、これまでの恩返しにつながればとの思いや「女性と女兒のために、良いタイミングと良い方法で与えられた良質な教育は、女性と女兒に、最上の変化を与えられる」という理念に共感し参加すること。

助産師の経験を生かせる方法を模索する中、誕生学協会の設立者である大葉ナナコさんが「いい夫婦の日」のイベントで舞鶴へ。「日本は妊婦死亡率や出産死亡率が世界で一番低いのに、子どもの自尊感情は世界でも最下位に近づく。子ども達に自分が生まれた事は奇跡みたいなことで、生まれてくる時に

とても頑張ったことを伝えないと自分の命ってすごいと思えない。妊娠と出産をきちんと知り、自分の命の大切さを知ってもらいたい」という話に「これだっ」と思って誕生学の勉強を始めた。

活動のなかで

「日本では性の話が少しタブーみたいなところがあって、当初はソロプチニスト舞鶴でも賛否の声がありました。誕生学のプレゼンをして応援してくれることになりました。国際ソロプチニストアメリカ連盟からも認められ、1,000ドルの援助金をいただき、映画生まれる」の上映会なども行えました」と当時を振り返る。

誕生学を学ぶ基本の年齢は、好奇心旺盛な小学3年生。パネルや赤ちゃん人形、DVDなどを使い、妊娠・出産をできるだけ優しい言葉でロマンチックに話すことを心掛けている。中学・高校生向けになると、避妊や不妊などのシビアなことも伝えていく。

「父と兄と書いています。母には捨てられたと思っていました。生まれた時の写真を見ると笑顔の両親が写っているのに、

大人は子どものことなんかどうでもいいんやな、嘘なんやなって思っていたけど、誕生学を学んで、父も母も生まれた時は喜んでくれた、愛してくれたんだなってわかった」と嬉しい感想をもらっているという。

子ども達へ

『性』というのは『心に生きる』と書きます。大切にすれば性は本当に人生を豊かにしてくれるし、命は性からしかつながらないんです。いつか自分が赤ちゃんを産みたいって思ったときに、産めることって本当に嬉しいことです。そのためにも自分を大事にしてほしい」と語る。

「学校の40〜50分の授業時間では、子ども達を変える力はないかもしれないけど、あなた達の命ってこんなふうが始まって、お母さんのお腹の中でこんなに頑張って、生まれる時もすごい頑張ったんだよって伝えてあげること、自分も頑張ったのかな、自分が生まれた時お母さんもこんなに喜んでくれたのかなって思ってくれたら、ちよっとでも大事なことを伝えられたら」と語り和田さんからは、子ども達の明るい未来を願う思いが溢れていた。



まいづる 花図鑑

vol.171



ギンラン (ラン科)

本州以南の山地の木陰に生える多年草。茎は直立し高さ15〜25㍎程。葉は、2〜3枚で茎の上部に互生し長さ3〜8㍎、幅1〜3㍎の細長い楕円形で先は尖り、基部は茎を抱き無毛。春、茎の先に白色花を数個付ける。花は1㍎くらいで平開しない。

名前の由来は「銀蘭」で、白花をつけることから黄色の花を付けるキンラン（金蘭）に対してつけられた。キンラン・ギンランともに京都府絶滅危惧種指定で近年見かけることが少なくなった。

【協力】 瓜生勝朗/市文化財保護審議会委員（植物分野）

発行・舞鶴市 (〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸 1044、☎62・2300)
※…舞鶴市内の電話番号では市外局番 (0773) を省略しています。
編集・広報広聴課 (☎66・1041、FAX 62・7951) 基本デザイン、一部編集、印刷・有限会社多田印刷所



舞鶴市公式LINEアカウント
防災情報、市政・イベント情報など
登録は、こちらのコードから

